

公明党 横浜市会ニュース 第61号

民衆の声  
ボイス

# VOICEよこはま

公明党横浜市議員団 〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL.671-3023 FAX.681-2060 http://www.yhkomei.com/ E-mail:shikai@yhkomei.com



港湾施設の老朽化を視察  
(H24年8月)

■港湾施設の耐震化工事も災害時の港湾機能と、地域経済を維持する上で重要として盛り込まれました。



路面下の空洞調査を行う車両を視察  
(H24年6月)

■公明党が要望してきた市内の緊急輸送路の路面下空洞調査は、全長380kmを順次調査することになります。



医薬品会社の免震倉庫を視察  
(H24年8月)

■災害時を安心の医薬品安定供給を行うための対策等、ソフト面を充実させることとなります。



小学校校舎に設置された耐震フレーム  
(H23年11月撮影)

■耐震診断の結果、補強が必要とされた市立小中学校の耐震補強工事を本年29校、34棟で実施します。

## 平成25年度予算案

# 防災・減災対策が大きく前進!

公明党横浜市議員団は、これまで防災・減災対策を推進してきました。平成25年度の横浜市予算案には、その主張が大きく反映され、国の24年度補正予算案と合わせ、道路整備や学校耐震化工事等を予定より前倒しして実施するとしています。また、橋りょうや港湾等の施設の老朽化対策も大きく前進する見込みです。



平成25年第1回定例会が始まる  
—皆様の期待にお応えします!

## 望月やすひろ通信 市政報告 Vol.16

### 政務調査活動を市政に反映

平成25年度予算が審議される平成25年第1回定例会が2月1日より3月26日の54日間の会期で開催されています。この予算議会に向けて、視察や調査研究など政務調査を精力的に行ってきましたので報告します。



横浜市議員(港北区選出)  
もちづき  
望月やすひろ

#### ■子育て

##### 《地域子育て支援拠点「びーのびー」港北区》

港北区菊名西口商店街の空き店舗を利用した子育て拠点が「びーのびー」。約20坪のスペースに多くの親子が集ってきます。乳幼児と母親の在宅率が高いけれど、児童館がなく地域の中で子育て親子が過ごせる場がなかった背景の中で、若い母親たちが立ち上げた「つどいの広場」のバイオニアです。

#### ■雇用創出

##### 《若者自立・就労支援

##### 「K2インターナショナルグループ」磯子区》

根岸駅前を中心に若者の自立・就労支援事業を展開するK2グループ。自立や就労に困難のある若者を対象に、合宿型や通い型の様々な支援プログラムを準備し展開しています。

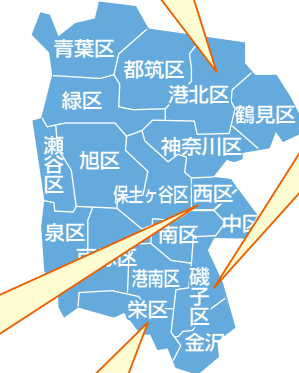
引きこもり状態の青少年の自宅を訪問するサポート事業も行っています。



#### ■若者支援

##### 《居場所事業「よこはま Port for」西区》

家族と離れて児童養護施設等で暮らす子どもたちに入所中から退所後も寄り添い、相談や情報提供、仲間作りの機会提供などの支援を行う拠点です。施設退所者等が、気軽に立ち寄れる居場所を提供しています。



#### ■経済活性化

##### 《株式会社メビウス 西区》

手術シミュレーターを開発する会社。京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略特区において、横浜市が推進するプロジェクトのひとつである手術シミュレーター開発事業に参画されています。



#### ■障がい者施策

##### 《横浜市多機能型拠点「郷(さと)」栄区》

医療的ケアを必要とする重症心身障害児・者等とその家族が、住み慣れた身近な地域で安心して生活できるように、市内6カ所に「多機能型拠点」の整備が進められています。その第1号が栄区の「郷」です。横浜市には自宅で生活している重症心身障害児の方が800名ほどいます。そのほとんどの方が医療的ケアを必要としています。将来にわたるあんしんにつながる整備の拠点が急がれています。

#### ■復興支援

##### 《復興庁福島復興局 福島県福島市》

福島市にある福島復興局を訪ね、福島県の復興の現状と横浜市ができる復興支援について、浜田まさよし副大臣と意見交換をしてきました。復興のための様々な手続きを進める行政職員が足りないこと、観光支援こそ復興支援など貴重なご意見を戴きました。



#### ■復興支援

##### 《震災復興の取組 宮城県名取市》

がれき処理やまちの復興状況を確認する目的で2年前に訪れた名取市を訪問しました。がれき処理は終わっていましたが、復興のまちづくりはこれから。名取市震災復興計画が策定されましたが、宅地整地や集団移転などまち再生のプロセスは住民の合意が必要ですのでハードルが高いようです。また、今後の防災計画に活かすべき事例についても伺いました。